

令和4年度 心を育む学校給食週間の取組み

◆実施校数:348校

学校給食を実施している小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校

◆実施内容

「こころ」づくり	食の背景に広がるいのちのつながりに気づく。 食に関する文化を理解し、作法を身につける。
【取組の特徴】 生産者を招いての交流給食や生産者の紹介動画により、食の背景に広がるいのちのつながりに気づき、感謝の気持ちをもって思いをあいさつや態度にこめる取組みが多かった。また、給食に使用する野菜を自分たちで栽培して、その苦労や収穫の喜びをクイズ形式で全校生に紹介したり、おいしく食べる工夫を調べてレシピを作成したりする児童生徒が主体となった取組みがみられた。	

飯豊町立第一小学校3年生が考えた「いただきます」の合言葉



「こころ」づくり(豊かな心の育成、社会性の涵養)取組事例

学校名	山形市立金井中学校
実施期間	令和4年6月13日(月)～6月15日(水) 令和5年1月11日(水)～1月13日(金)
<p>【教科等における取組み】</p> <p>○家庭科「おせち料理」について</p> <p>冬休み明けの家庭科の授業で、「おせち料理」についての授業を全クラスで学習した。おせち料理は手作りせず買って食べるという家庭が増えつつあるのが現状である。だが、お正月の行事食である「おせち」について、その作り方やいわれを知らながら、その食べ物に込められた人々の願い、その料理に込められた思いに触れ、日本の食文化への理解を深めさせた。</p> <p>◎成果</p> <p>お正月にいただく「おせち」について、それぞれに込められた思いなど、新たな発見をした生徒が多く、家族と触れ合いながら食べ物や行事食への関心を高めることができた。</p>	

学校名	天童市立第二中学校
実施期間	令和5年1月16日(月)～1月20日(金)
<p>【学校給食センターとの連携】</p> <p>○お好み献立の考案</p> <p>天童市学校給食センターでは、毎年各学校にお好み献立を立てる機会を設けている。今年度本校は1月の担当であった。各学級で班ごとに、1月にふさわしいテーマを考え、テーマに沿ったメニューを考えた。食品群別摂取量を参考に、全ての食品群を網羅したメニューになるように考えた。また、旬の食材を使ったり、調理の手間や栄養を考えたり、フードロスなどの社会問題について考えた班もあった。1月16日から19日まで「二中生考案献立」として、「冬に負けないスタミナ献立」、「和食の良さを見直そう献立」、「受験の応援献立」、「みんな大好き残菜0献立」を各学級から1つずつ給食センターに選んでもらい、提供してもらった。</p> <p>◎成果</p> <p>「二中生考案献立」の時は、残菜が少なかったとの連絡があり、成果を感じる事ができた。普段から学校給食センターと連絡を取り合ったり、情報を交換したりしながら、この期間に限らず食に対する取組みや指導を継続していきたい。</p>	

学校名	山辺町立山辺中学校
実施期間	令和4年12月5日(月)～12月9日(金)
<p>【学校給食センターとの連携】</p> <p>○「給食センター一日の仕事の流れ」掲示と給食時間の放送</p> <p>心を育む学校給食週間に合わせて、給食センターの一日の仕事の掲示物(写真)とし昇降口前フロアに展示することで、生徒に興味を持たせた。また、栄養教諭と給食担当教諭が昼の放送で、現代と未来ののび太が会って会話をする「イメージーション紙芝居」を実施することで、成長期に必要な栄養のこと、今摂取しているものが自分の将来の身体に影響することなど、バランスよく食べることの大切さについて学ぶ機会を設けた。</p>	

◎成果

栄養教諭の講話から、自分の現在と未来の食生活が密接につながっていることを理解し、バランスよく食べること（食材、時間帯、食習慣）の大切さを再認識できた。

学校名	真室川町立真室川あさひ小学校
実施期間	令和4年11月14日（月）～11月18日（金）

【学校給食の充実】

○特色ある献立、生産者との交流

「心を育む学校給食週間」期間中は、町全体で毎日特色ある献立の給食が出された。「明治の給食」、「ワールドカップサッカーカタル給食」、「おいしいふるさと給食」、「昭和の給食」、「アニメ・ワンピース献立」とバラエティーに富んだおいしい給食が出され、児童は食に興味を示し、朝から給食を楽しみにしていた。「おいしいふるさと給食」では、本校とも交流のある、野菜ソムリエプロの緒方湊さんからアドバイスをいただいて実現したメニューで、内容は「五目栗ご飯、甚五右エ門芋のグラタン、とっくりかぶのマリネ、原木なめこのすまし汁、デザート、牛乳」と、町内でとれた食材をふんだんに使った給食となった。当日は、ワーコム牛生産者の栗田さんをお招きして、5年生と一緒に給食を味わった。また、各クラスにはオンラインで配信し、栗田さんのお話をお聞きした。

【展示の工夫】

○調理道具の展示

調理員が日常使っている、大きくて重いおたまやザル、本物サイズで作った段ボール製の包丁、大きいまな板を展示し、実際に児童に持たせてみて、重さを実感させた。



【調理員との交流】

○調理員による放送

調理員に、「給食を作るときの苦勞」や「子どもたちに伝えたいこと」等を放送で話してもらった。児童は、毎日自分たちのために一生懸命に作ってくださっていることを知り、全員でお礼の手紙を書いて調理員に渡した。

◎成果

子どもたちは町全体の取組みである「おいしいふるさと給食」を喜んで食べていた。児童が重い調理器具を実際に持ったり触れたりする体験を通して、調理員の苦勞を知り、感謝の気持ちを手紙にして伝えることができた。

学校名	飯豊町立第一小学校
実施期間	通年、特設：令和4年11月28日（月）・12月9日（金）～12月16日（木）

【学級活動】

○3年生「いただきます。」の挨拶を考える

3年生の学級活動の時間に、こころ（食に関わるすべてに感謝）、からだ（健康・立腰・よい姿勢）、おこない（マナー、感染防止）づくりの大切さを指導した後、その三つの観点を意識した、本校独自のあいさつ作成に取組み、「合い言葉」としてホールに掲示し、全校で実践し、あいさつに込める思いを確認した。

学校名	鶴岡市立朝陽第一小学校
実施期間	令和4年8月30日(火)～9月2日(金)・12月21日(水)
<p>【地域との連携】</p> <p>◎食に携わっている方々との食育動画 農家の方や漁業関係者・山形大学農学部准教授などに給食委員がインタビューを行った。インタビュー内容をまとめて編集した動画「食の都 庄内を学ぼう！」を給食の時間に各クラスで視聴した。各放送回でテーマを設定し、庄内浜の魅力や庄内テロワール・在来作物（外内島きゅうり）や庄内米について知る機会となった。</p> <p>◎地元食材を使ったアイデア料理の募集 「食の都 庄内を伝えよう！」と題し、児童の好きな食べ物や地元食材を使ったレシピに関するアンケートを高学年対象に行った。その後、地域のレストラン経営者と連携して、実際に調理するイベントに児童のアイデア料理を採用してもらった。</p> <p>◎成果 「食の都 庄内を学ぼう！」の動画を通して、地元の食材の良さに気付くことができたとともに、給食に出てくる食材の一つ一つが大切に育てられていることへの理解を深めることができた。</p>	

学校名	鶴岡市立朝陽第二小学校
実施期間	令和4年11月30日(水)～12月8日(木)
<p>【委員会活動】</p> <p>◎給食委員会の集会発表（クイズを交えながら、映像と共に紹介。） ・「鶴岡の食文化」 ① 民田なすについて…歴史や特長（松尾芭蕉や藤沢周平も食した）、収穫までの大変な作業、血統を守る工夫 ②お盆の時のお供え物、大黒様のお歳夜の料理、鶴岡の四季折々の汁 ・「牛乳、ご飯・パン、おかずが届くまで」…衛生や安全に留意した作業の様子、携わる方々の思い ・「おすすめの食材・献立」…栄養士さんのお話から</p> <p>◎給食委員会による昼の放送特別番組（日替わりでテーマを決めて、5日間放送） ・「先生方の思い出の給食とおすすめ郷土料理」…5人の先生方にインタビューしたものを紹介 ・「給食のはじまり」…『つるおか給食今昔物語り』の朗読（昔の給食献立の日に実施） ・「災害時の食事」…災害時に必要な水と食料、非常食の紹介、水を節約する工夫、おいしく食べる工夫</p> <p>◎全校児童による給食感謝の手紙 中央廊下に掲示し、放送でも紹介したあと、給食センターへ贈った。</p> <p>◎鶴岡の食文化についての掲示 生きた文化財である在来作物や受け継がれてきた郷土料理、行事食について掲示した。</p> <p>◎成果 給食に携わる方々の仕事の様子、工夫や思いを具体的に知ることで、児童の感謝の気持ちがより強くなった。鶴岡の食文化について知ったり、食事の大切さについて考えたり、自分の食生活を見直したりする機会になり、食についての知識や関心が高まった。</p>	

学校名	庄内町立余目第三小学校
実施期間	令和4年12月12日（月）～12月16日（金）
【児童会活動】 ○全員参加給食川柳 給食に関する感謝の気持ち、わくわくする気持ち、苦手なものに対する不安な気持ちなど、一人ひとりが感じている思いを川柳にして表し、放送で各クラス1名ずつ紹介した。また、全員分を掲示することで、思いを共有できるようにした。	

学校名	県立村山特別支援学校
実施期間	令和4年12月12日（月）～12月16日（金）
【委員会活動】 ○校内放送「給食クイズ」 校内放送を活用して献立や食材の栄養紹介をしたり、給食委員長によるカルシウムに関する給食クイズを実施したりした。	
○制作活動「毎日カルシウムを貯金しよう」 制作活動では、「毎日カルシウムを貯金しよう」というねらいで各学部用に骨の形のボード「骨コツ君のキャラクター」を掲示し、期間中、教師や友達と一緒にシールを貼れるようにした。	
【高等部農芸班の取組み】 ○栽培した大根を使った献立の提供 高等部農芸班が栽培した大根を使った献立を実施した。栽培の様子を放送で紹介し、畝づくり、種まき、水やりなど、長い期間をかけて世話をすることで大切な食材が出来上がることを知らせた。	
◎成果 児童生徒は、「カルシウムのすごいパワー」、「カルシウムの役割」の掲示に興味をもって見入っていた。わかりやすい言葉やイラストの活用が効果的であった。「骨コツくんにシールを貼ろう」の制作では、自分から何枚もシールを貼ったり、友達と一緒に笑顔で活動したりする姿、自分の学部と他の学部のボードをじっくり見比べている姿などが見られた。シールを貼って、骨密度の高い骨になっていく様子が見て分かりやすく、よりテーマに関心をもちながら、主体的に参加することにつながった。	
高等部農芸班の育てた大根の献立を放送で紹介したことで、友達、先輩が育てた食べ物に関心や親しみを持って食べることができた。農芸班の生徒は、自分たちの活動に自信や満足感を持つ姿が見られた。	

